



- 令和5年8月に開始されたALPS処理水の海洋放出については、これまでの風評対策はもとより、多くの方々の御支援により、今のところ県内における大きな風評被害は確認されていない。また、令和5年度における風評・風化対策強化戦略の主要指標である「ふくしまに良いイメージを持っている人の割合」は51.4%と、引き続き目標値である50%を超え昨年と同程度であった。
- 一方で、補完指標としている県産農産物の価格は全国平均と比較して低い状況が固定化しており、観光客についても震災前の入込数まで戻らず根強く風評が残っている。また、震災と原発事故から13年が経過する中、ふくしまに対するイメージに「どちらともいえない」とする人の割合が増加するなど風化も進んでいる。
- それらの課題に対応するため、令和6年度においては、「福島県風評・風化対策強化戦略第5版」の下、国内はもとより、海外への情報発信を積極的に展開し、「常磐もの」を始めとした県産品や地域の魅力、震災の記憶や福島の復興の現状が着実に伝わり、本県への共感の輪が更に広がるよう取り組んでまいります。

令和6年度 風評・風化対策主要事業

県産品の販路回復・開拓

- 県産品風評対策事業 (県産品振興戦略課) **73,675千円**  
輸入規制が撤廃された米国やEU等において、県産酒及び県産米を中心としたプロモーション等を実施することにより、本県産品の安全性やおいしさを全世界に発信し、風評払拭及び輸出拡大を図る。
- 福島県産水産物競争力強化支援事業 (水産課) **565,000千円**  
本県水産物への風評を払拭し、販路を拡大していくため、本県水産物の水産エコラベルの取得支援や高鮮度出荷体制の整備支援、量販店への販路確保の取組等を支援し、他県産に負けない本県水産物の競争力強化を図る。

観光誘客の促進

- ホープツーリズム運営・基盤整備事業 (観光交流課) **217,932千円**  
ホープツーリズムの関連コンテンツ、モデルコース等の最新情報を整理・集積した総合窓口及びホープツーリズムサポートセンターの運営を行うとともに、ホープツーリズムの更なる深化・拡大に向け、一般観光客向けの情報発信を行う。
- 福島インバウンド復興対策事業 (観光交流課) **320,222千円**  
海外に向けたSNSによる情報発信の強化やインバウンドビジネス向けのセミナーの開催等による受入体制の強化など、誘客のフェーズを意識した戦略的なインバウンド誘致を展開する。

国内外への正確な情報発信

- チャレンジふくしま戦略的情報発信事業 (広報課) **545,913千円**  
関係部局や市町村、企業、大学等との連携・共創や、様々な媒体・手法の活用、唯一無二のクリエイティブによりふくしまの今と魅力を強力に発信。
- 風評・風化対策強化事業 (風評・風化戦略室) **117,689千円**  
本県に対する「良い」イメージの割合が低い傾向にある西日本において、イベント等における発信を拡充。
- 次世代へつなぐ震災伝承事業 (生涯学習課) **19,993千円**  
語り部団体等のネットワーク化や人材育成、海外への語り部派遣などにより世代や国境を越えて本県への理解を深めていく。

土台となる取組

- 緊急時・広域環境放射能監視事業 (放射線監視室) **64,612千円**  
事故に伴う放射性物質の拡散に対する環境監視を行うとともに、測定結果を広く公表し、正確で分かりやすい情報発信に努める。
- 食の安全・安心推進事業 (消費生活課) **37,789千円**  
事故の影響を踏まえ、放射能や食の安全性をテーマとした説明会を実施し、消費者の理解促進を図る。